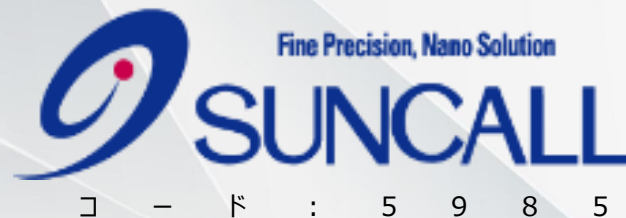


2022年3月期 決算説明会

動画：2022年3月期 決算説明会

2022年6月7日



AGENDA



I. 会社概要

II. 2022年3月期 決算概要

III. 2023年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

会社概要

Purpose 技術をより良い世界のために

次世代事業への挑戦

将来

第二次成長期
(電子情報通信分野への参入)

現ポジション

第一次成長期
(自動車関連事業の確立)

創業期

1943年

創業

飛行機エンジン用
弁ばねの開発製造を目的として、
空爆のない京都で創業

ばね製造

戦中に潜水艦でドイツから運ばれ
てきて軍の小倉工場にあったもの
を譲り受けて生産



当時のコイルマシン
(京都本社写真)

妥協は許さない
いのちを乗せるものづくり



エンジン部品



ミッション部品

安全部品



需要は
今後も拡大

独自の微細加工技術で
世界のビックデータを管理する

ローラ



HDDサスペンション



光コネクタ



モータ・電気部品
(EV製品)



環境・エネルギー新素材
「竹炭」



医療・介護



社名 : サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION

設立 : 1943年6月

資本金 : 48億8百万円

本社 : 京都市右京区梅津西浦町14番地

証券取引所 : 東京証券取引所 プライム市場

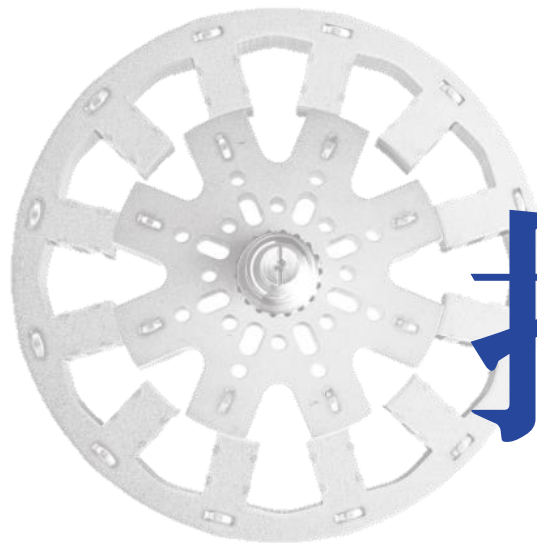
従業員数 : 2,280名 (連結) 632名 (単体)

主要株主 : 日本マスタートラスト信託銀行(株)
(退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 16.7%
伊藤忠丸紅鉄鋼(株) 12.6%
伊藤忠商事(株) 9.8%

(2022年3月末時点)

技術をより良い世界のために

技翔創変



サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

技翔

技術を飛翔させていくこと

特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない

創変

変化を自分で作りだしていくこと

世の中の変化をリードし、創造していく

材料から加工まで一貫生産

材料関連事業・弁ばね用鋼線 精密異形線



一貫生産を支える当社の芯。数々の独自技術に展開するコア事業。安心・安全・高品質で新規領域へ

①弁ばね



国内シェアトップクラス。材料から加工まで一貫生産により、高品質、1億回の伸縮にも耐えられる高耐久性を実現。

②リングギア・ドライブプレート

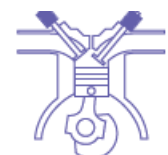


国内シェアトップクラス。独自の金属加工技術で高精度を実現。

③シートベルト用ゼンマイばね



材料から製造するため、精密なトルクの調節が行え、快適性を実現。

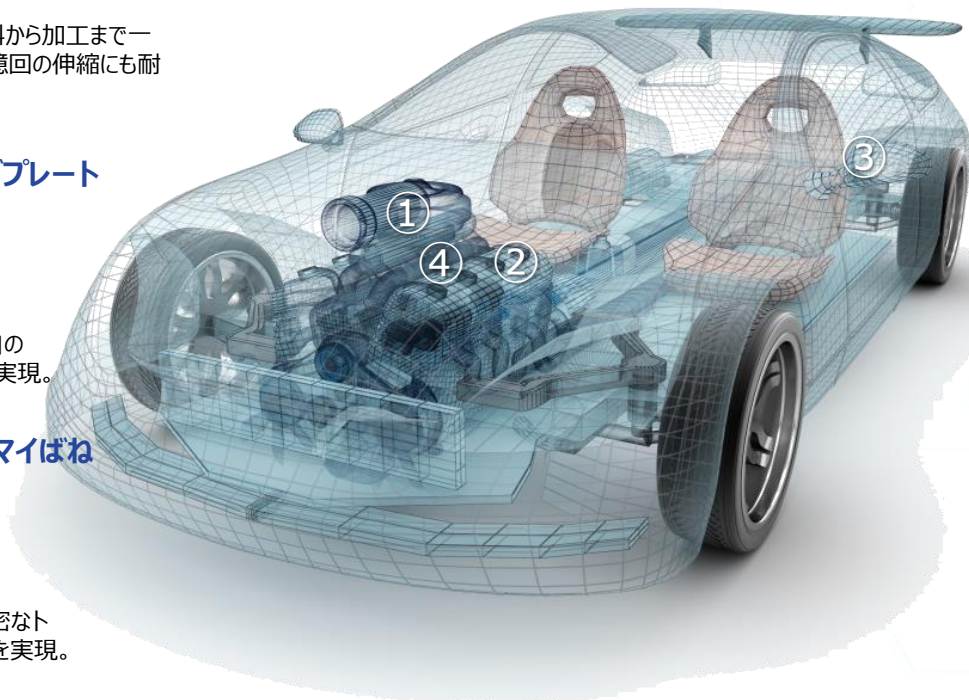


エンジン部品



ミッション部品

安全部品



モーター・電気部品



④バスバー

ユニットの形状に合わせて個別に設計。これからの配線の主役。



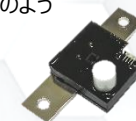
④シャントonバスバー

バスバーに流れる電流検知できるバスバー一体型センサー。EV車に搭載されるリチウムイオン電池のような大電流にも対応。



④シャントセンサー

シャントバスバーにIC基盤を搭載。検知電流をデジタル・アナログ形式で出力できる機能を付加した高付加価値品。



④モーターコア・ステーターコア

モーターの芯を構成する部品。当社は自動で一貫生産し、高い生産性を実現。



データ社会を支えるキーデバイス

プリンター



プリンター関連製品

長尺・軽量・高精度シャフト
供給によりW/Wトップシェア
ローラー



トルクミッター
スプリングクラッチ



HDD用サスペンション

HDD



HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする極限レベルの精度要求に対応

データセンター



通信関連製品

光コネクタ



光アダプタ



国内14拠点

本社	京都府京都市
生産拠点	
本社工場	京都府京都市
京都南工場	京都府京都市
豊田工場	愛知県豊田市
広瀬工場	愛知県豊田市
国内子会社	
サンコールエンジニアリング株式会社	山梨県南アルプス市
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市
営業拠点	
東京支店	神奈川県横浜市
名古屋支店	愛知県豊田市
西日本支店	京都府京都市
上田営業所	長野県上田市
北関東営業所	栃木県宇都宮市
浜松営業所	静岡県浜松市
近畿営業所	京都府京都市
西日本営業所	広島県広島市

海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテス州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテス州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、 光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

2022年3月期 決算概要

前期比大幅増収増益、売上高・営業利益はほぼ2/10公表予想通りで着地

売上高 **47,438百万円**（前期比+7,298百万円/ +18.2%）
営業利益 **649百万円**（前期比+1,942百万円）

世界的な半導体不足や新型コロナ変異種拡大に伴う部品不足による自動車減産の影響を受けるも、自動車分野において前期比大幅回復。電子情報通信分野においても高い需要が継続し前期比増収。

自動車分野

売上前期比+13.8%、+3,738百万円

* 材料関連

弁ばね用材料や精密異形材料が大きく回復

* 自動車関連

前年の新型コロナウイルスからの回復、重点戦略製品(バスバー、LED部品他)の拡販により売上前期比+12.4%を達成

電子情報通信分野

売上前期比+31.1%、+3,765百万円

* HDD用サスペンション

データセンター向け投資増で需要は高水準。

売上前期比+39.1%

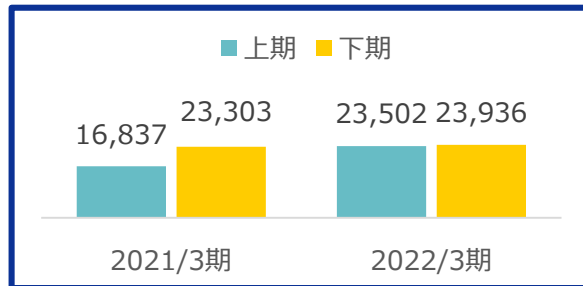
* プリンター関連

家庭用特需が継続し、売上前期比+12.9%

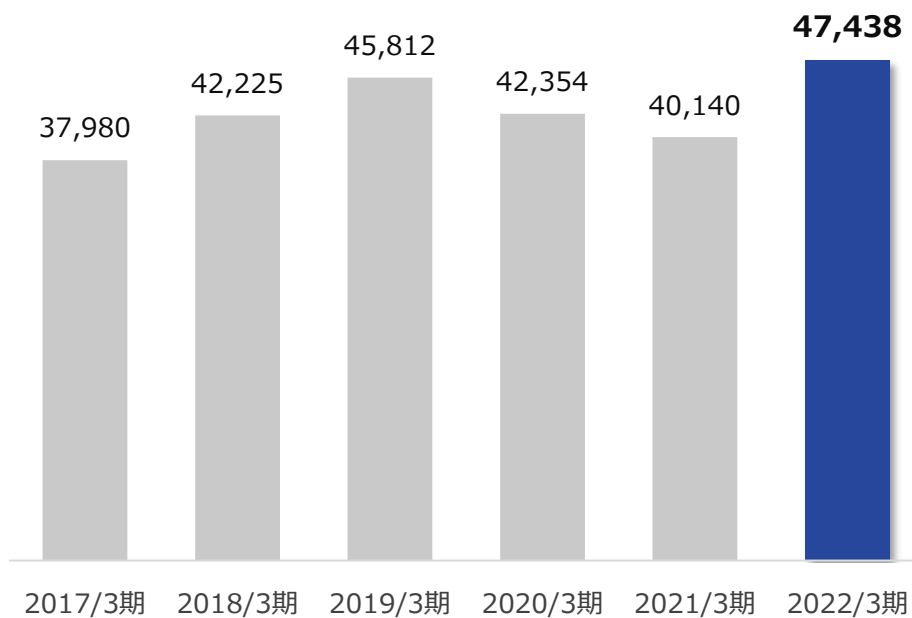
◆ 売上高	自動車分野での回復およびHDD用サスペンションの増加により前期比+7,298百万円 (為替影響+2,036百万円、鋼材価格転嫁+226百万円含む)
◆ 営業利益	増収に伴い営業利益649百万円を計上、前年比+1,942百万円の大幅収益改善 (為替影響+473百万円、減価償却費減+341百万円含む)
◆ 経常利益	鋼材価格高騰による作業屑売却益の増加(前期比+120百万円)
◆ 当期純利益	特別利益に投資有価証券売却益401百万円を計上(2021年3月期は同805百万円計上)

単位：百万円	2021年3月期	2022年3月期				
	実績	実績	前期比	2/10 公表予想	予想比	(参考) 当初予想
売上高	40,140	47,438	+7,298	47,600	▲162	47,000
営業利益	▲1,293	649	+1,942	650	▲1	400
経常利益	▲1,000	1,022	+2,023	850	+172	500
当期純利益	61	904	+843	710	+194	470
一株当たり利益	1.95円	29.34円				
平均為替レート	106.1円/ドル	112.4円/ドル				
	123.7円/ユーロ	130.6円/ユーロ				

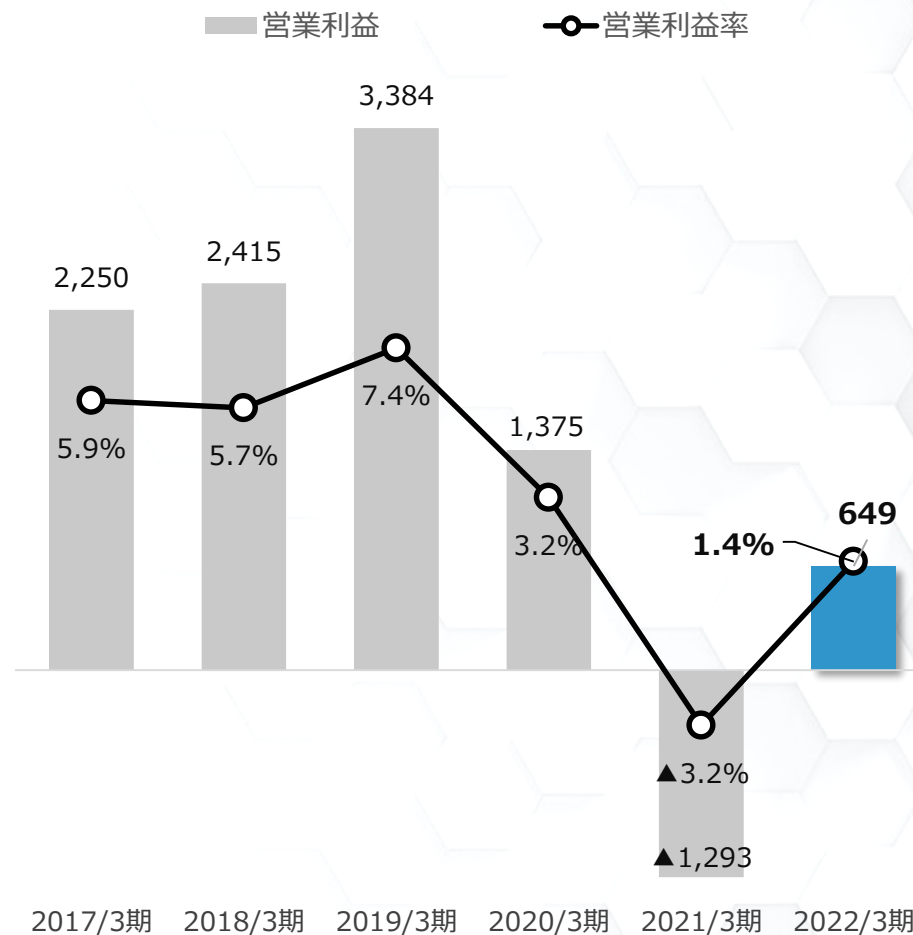
売上高の推移



(百万円)



営業利益・営業利益率の推移



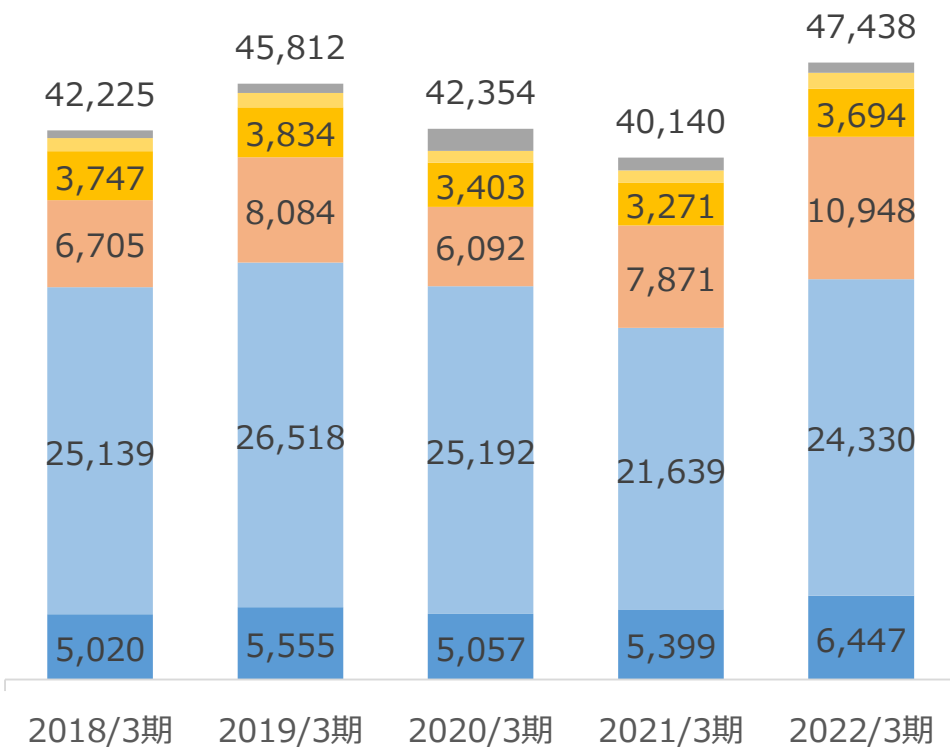
◆ 自動車分野	材料関連	自動車分野における前年の新型コロナウイルスからの回復による前年比増収
	自動車関連	部品調達不足による自動車減産影響を受けるも、自動車分野の回復および重点戦略製品(バスバー、LED部品他)の拡販により前期比増収
◆ 電子情報通信分野	HDD用サスペンション	データセンター投資増に伴う需要増加が継続
	プリンター関連	リモートワーク増加による家庭用(コンシューマ向け)需要増加が継続
	通信関連	主な市場である北米・アジアの需要回復により前期比増収

単位：百万円	2021年3月期		2022年3月期	
	実績	実績	前期比	
売上高	40,140	47,438	+7,298	+18.2%
自動車分野	27,039	30,777	+3,738	+13.8%
材料関連	5,399	6,447	+1,047	+19.4%
自動車関連	21,639	24,330	+2,690	+12.4%
電子情報通信分野	12,106	15,871	+3,765	+31.1%
HDD用サスペンション	7,871	10,948	+3,076	+39.1%
プリンター関連	3,271	3,694	+423	+12.9%
通信関連	963	1,228	+133	+27.6%
その他	995	789	▲206	▲20.7%

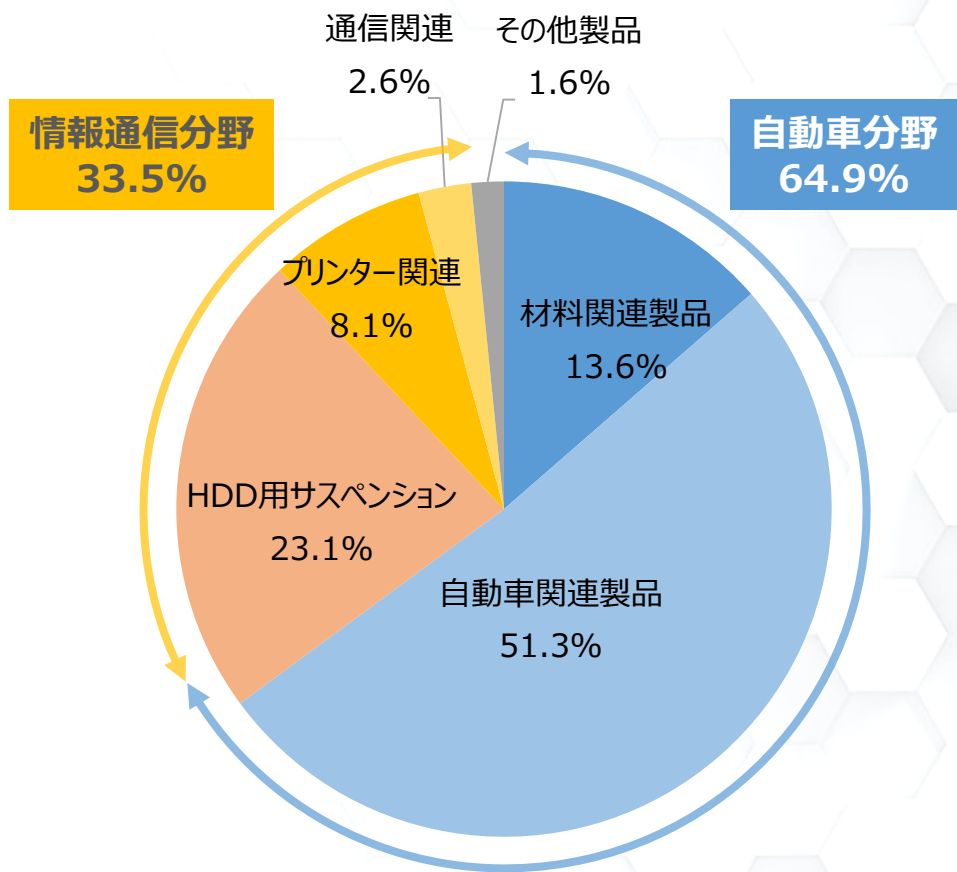
製品区分別売上高の推移

(百万円)

- 材料関連製品
- 自動車関連製品
- HDD用サスペンション
- プリンター関連
- 通信関連
- その他製品



2022/3期売上高構成比



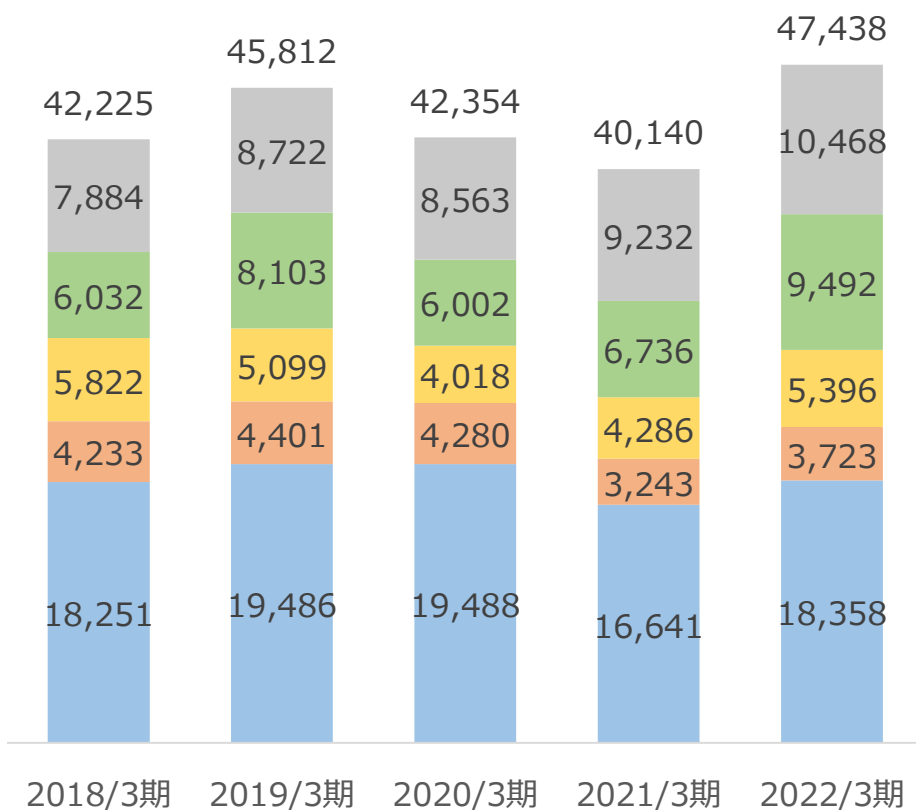
◆日本	自動車分野	自動車生産の回復による増収
◆米国	自動車関連製品	半導体不足の影響を受けるが、自動車生産の回復により前期比+245百万円増収
	通信関連製品	5G・IoT関連の需要拡大により前期比+204百万円増収
◆中国	自動車分野	半導体不足の影響を受けるが、自動車生産の回復により前期比+819百万円増収
◆フィリピン	HDD用サスペンション	データセンター投資増に伴う需要増加が継続
◆その他	HDD用サスペンション	タイ向けの納入増加他

単位：百万円	2021年3月期	2022年3月期	
	実績	実績	前期比
売上高	40,140	47,438	+7,298 +18.2%
日本	16,641	18,358	+1,716 +10.3%
米国	3,243	3,723	+480 +14.8%
中国	4,286	5,396	+1,109 +25.9%
フィリピン	6,736	9,492	+2,755 +40.9%
その他	9,232	10,468	+1,235 +13.4%

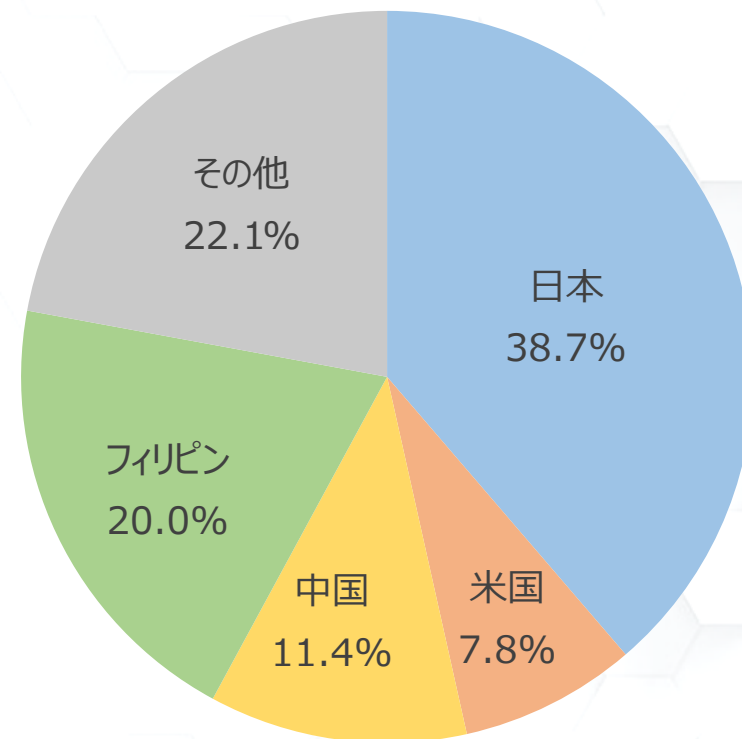
地域別売上高の推移

(百万円)

■ 日本 ■ 米国 ■ 中国 ■ フィリピン ■ その他



2022/3期地域別売上高構成比



◆固定資産増加	HDD用サスペンションおよび重点戦略製品への積極的な投資により有形固定資産+977百万円
◆流動負債	短期借入金+3,456百万円、買掛金+1,100百万円、未払金▲696百万円
◆純資産増加	当期純利益+904百万円、配当金▲625百万円、為替換算調整勘定+930百万円 自己株式(公開買付他)の増加▲692百万円

単位：百万円	2021年3月期	2022年3月期	
	実績	実績	前期末比増減
流動資産	25,207	28,328	+3,120
現金	7,570	7,510	▲60
売上債権	9,996	11,076	+1,079
棚卸資産	6,465	8,463	+1,997
固定資産	28,167	29,602	+1,435
総資産	53,375	57,932	+4,557
負債合計	17,054	20,749	+3,695
流動負債	13,781	17,471	+3,689
有利子負債	2,802	6,031	+3,228
固定負債	3,272	3,278	+5
有利子負債	1,541	1,186	▲355
純資産合計	36,320	37,182	+861
負債純資産合計	53,375	57,932	+4,557

◆営業C/F	税引等調整前当期純利益が前期比+1,294百万円増加
◆投資C/F	投資有価証券売却収入前期比▲459百万円減少、設備投資はHDD用サスペンションを中心に高水準を維持
◆財務C/F	短期借入金+1,892百万円増加、自己株式（公開買付他）の取得により▲703百万円減少

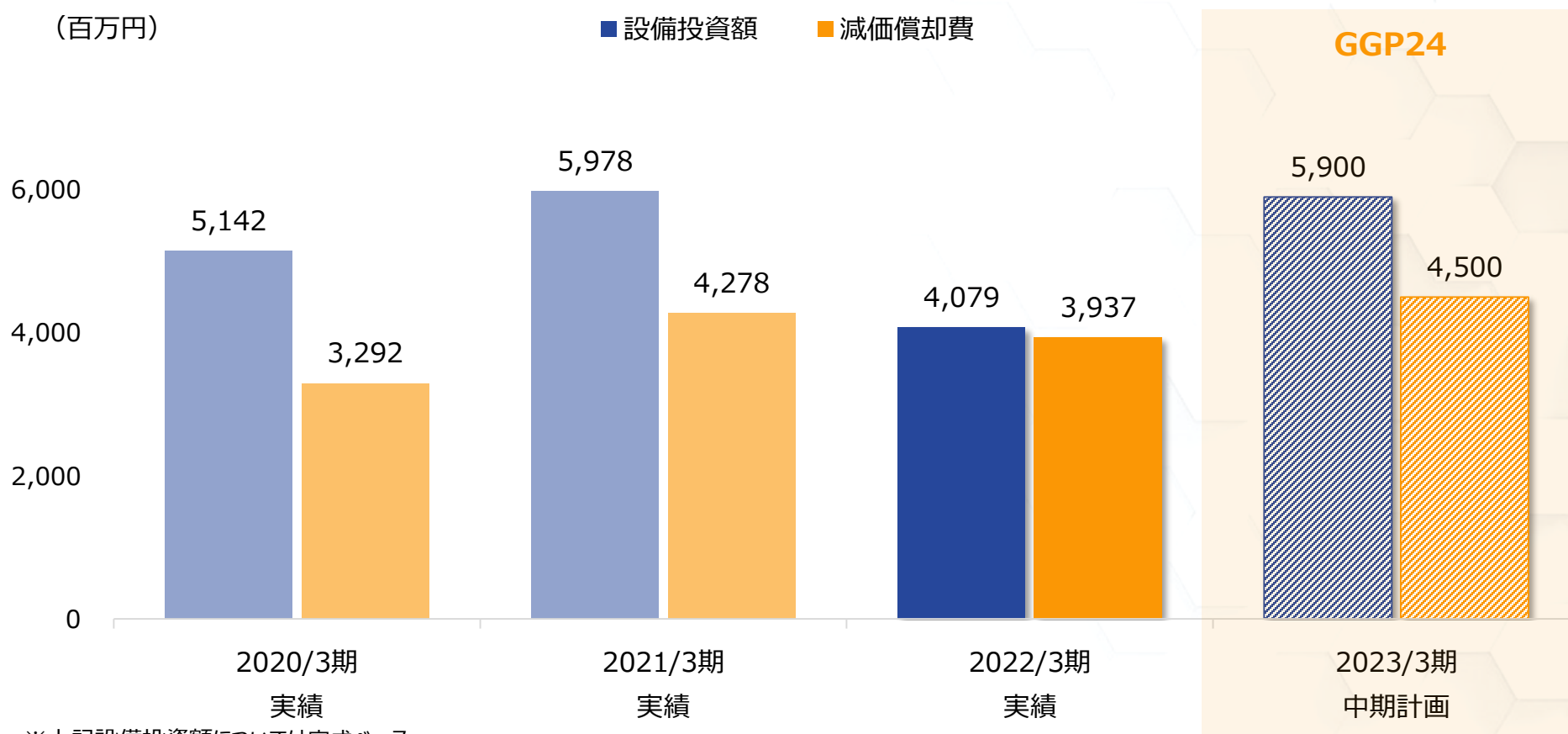
単位：百万円	2021年3月期		2022年3月期	
	実績		実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,014		3,170	+156
税引前当期純利益	136		1,431	+1,294
減価償却費	4,278		3,937	▲341
売上債権増減	▲666		▲832	▲165
棚卸資産増減	237		▲1,708	▲1,946
仕入債務増減	352		954	+601
投資有価証券売却益	▲805		▲401	+403
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,356		▲4,822	▲466
固定資産取得による支出	▲5,208		▲5,237	▲28
投資有価証券売却収入	869		410	▲459
財務活動によるキャッシュ・フロー	250		1,154	+903
短期借入金増減	1,484		3,377	+1,892
長期借入金増減	▲381		▲691	▲310
自己株式の取得	▲100		▲704	▲703

◆2022年3月期はHDD用サスペンションを中心に継続した設備投資を実施

設備投資額・減価償却費

(百万円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



※上記設備投資額については完成ベース

2023年3月期 業績見通し

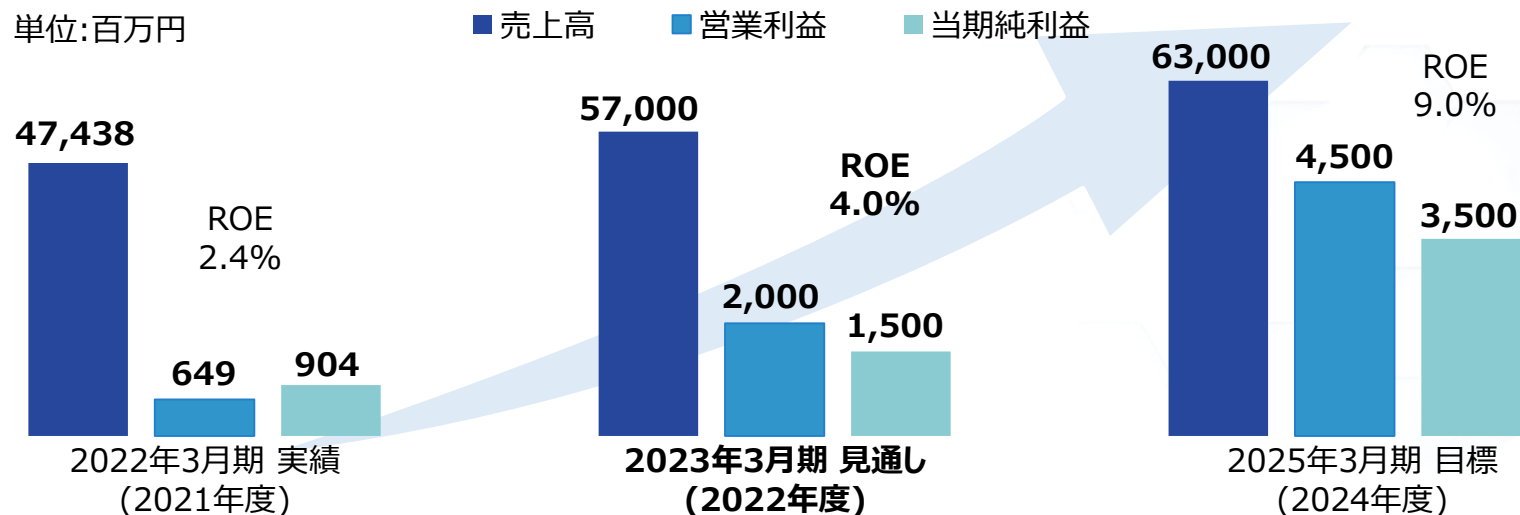
EV等電動化関連事業及び電子情報通信関連事業の大幅増収により利益拡大

売上高 **57,000百万円** 前期比：+9,562百万円(+20.2%)

営業利益 **2,000百万円** 前期比：+1,351百万円

当期純利益 **1,500百万円** 前期比：+596百万円

拡大する市場・需要増加に対応した各分野における大幅売上拡大を想定
 先行投資分野の確実な収益化を図り、利益成長の追求へ



◆ 売上高	前期比	・自動車生産の回復および重点製品の拡販、HDD用サスペンションの拡大により+9,562百万円増収見込み (為替影響+1,510百万円含む)
	中計比	・鋼材価格高騰および為替レート円安により+2,100百万円増加
◆ 営業利益	前期比	・次世代事業の育成に向けた戦略投資を継続しつつも、増収に伴い営業利益+1,351百万円の増加見込み (為替影響+487百万円、減価償却費増加△563百万円含む)
	中計比	・計画通りと想定

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期				
	実績	中期経営計画	見通し		通期 前期比	対中期経営計画
	通期	通期	上期	通期		
売上高	47,438	54,900	27,700	57,000	+9,562	+2,100
営業利益	649	2,000	600	2,000	+1,351	±0
経常利益	1,022	—	700	2,100	+1,178	—
当期純利益	904	—	450	1,500	+596	—
一株当たり利益	29.34円	—	15.00円	49.96円		
平均為替レート	112.4トル/円	110.0円/トル	120.0円/トル	120.0円/トル		
	130.61-円/円	125.0円/1-円	132.0円/1-円	132.0円/1-円		

◆ 中期経営計画GGP24達成に向け、次世代事業の伸長を見込む

◆ EV等電動化関連事業	バスバー、LED部品等、電動化関連製品の伸長+1,434百万円増収
◆ 電子情報通信関連事業	データセンター投資増に伴う需要増加
◆ 既存自動車関連事業	新型コロナウイルス感染影響および半導体不足からの回復を見込む増収 鋼材価格高騰分の価格反映

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	対2022年3月期
	実績	見通し	実績比
売上高	47,438	57,000	+9,562
EV等電動化関連事業	2,036	3,470	+1,434
電子情報通信関連事業	16,660	22,230	+5,570
HDD用サスペンション	10,948	16,380	+5,432
プリンター関連	3,694	3,900	+206
通信関連	1,228	1,290	+62
その他	789	660	▲129
既存自動車関連事業	28,741	31,300	+2,559
材料関連	6,447	6,750	+303
自動車関連	22,294	24,550	+2,256

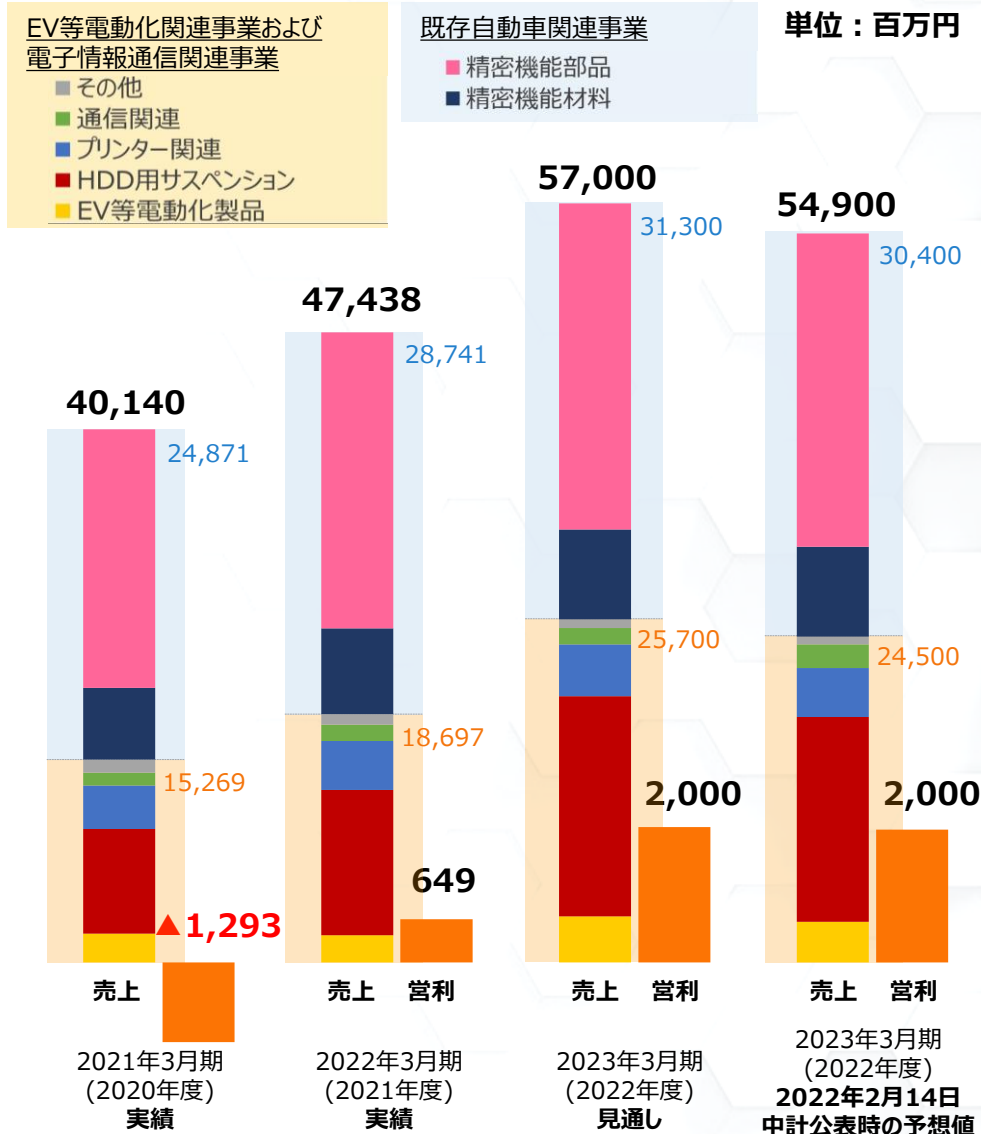


◆EV等電動化関連事業及び 電子情報通信関連事業

- 電動車向けバスバーの国内自動車メーカー2社採用に加え、今後他車種への展開を推進
- EV車への量産供給開始済みシャントバスバーについては、高精度電流検出用のシャントセンサーと合わせて欧州・中国・米国での拡販活動を展開
- サスペンション事業は、IoTの拡大や映像データの蓄積などデータセンター向けニアラインドライブ大容量ハードディスクドライブ（HDD）の高い需要に伴い売上拡大

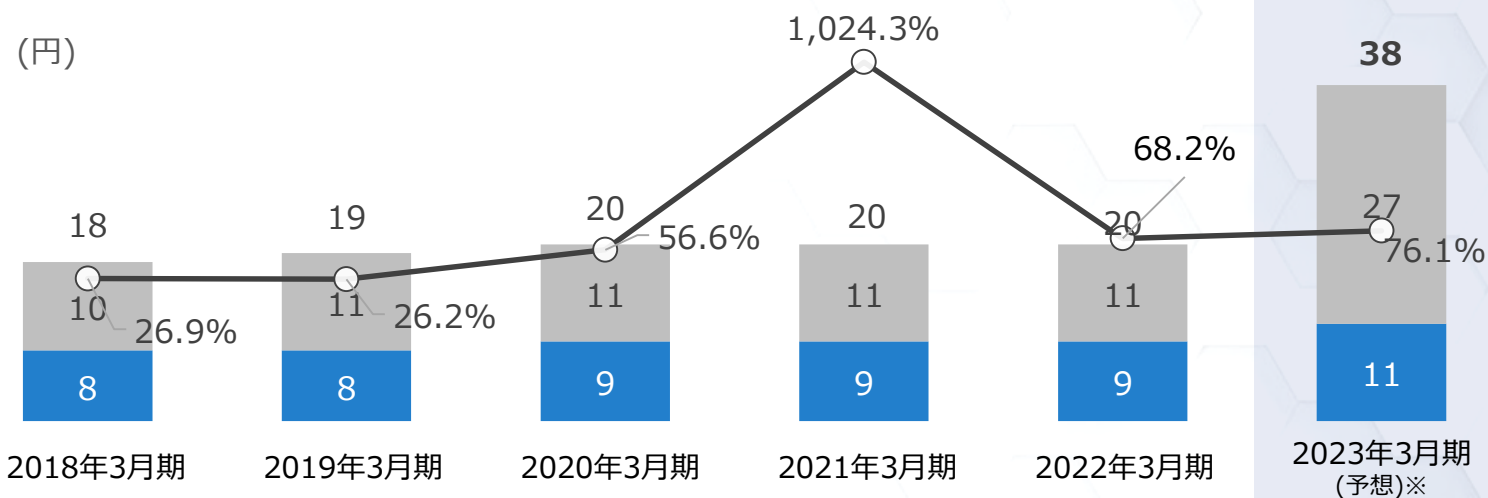
◆既存自動車関連事業

- 既存事業（主力のエンジンやミッション系精密機能部品で構成）は現状の売上規模を維持しつつ、鋼材価格高騰の価格転嫁遅れはあるが収益性改善を推進



◆ 2022年3月期	新型コロナの影響からは回復傾向ではあるものの、依然変異株や部品不足での自動車生産減少により純利益率1.9%。一方で下限配当20円は継続
◆ 2023年3月期	資本収益性とBSマネジメントを推進すべく、自己資本の積み増しを抑制するための積極的な株主還元を実施

配当方針 ➤ **ROE9.0%を超過するまで配当性向を75%とする**（配当下限は20円を継続）



中間配当	8円	8円	9円	9円	9円	11円
期末配当	10円	11円	11円	11円	11円	27円
年間配当合計	18円	19円	20円	20円	20円	38円

※今後業績予想が修正される場合、配当方針に基づき修正されることとなります。

中長期の成長戦略



2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

事業戦略

EV等電動化関連成長事業 －グローバルに売上拡大・次世代主力事業へ－

- ・ 電動車ニーズに応えるべく「バスバー」、「シャントバスバー」の量産拡大
- ・ EV等電動化製品の欧州・中国・米国での拡販の展開

電子情報通信関連成長事業 －飛躍的成長の実現・利益成長の追求－

- ・ 顧客需要への対応に向けた設備投資継続と生産効率向上
- ・ 大容量ハードディスクドライブの需要に応えるべくサスペンションの生産能力強化
- ・ 通信関連/プリンター関連は製品開発、工法改善を通じ、生産効率を向上させる

自動車関連既存事業 －産業構造の変化に対応・収益力改善－

- ・ 製品別に市場成長性と収益性を検証
- ・ 徹底的な製品別収支管理により、既存案件の収益力改善に注力
- ・ 生産・営業拠点の最適化を検討

資本戦略

最適な資本構成を意識したBSマネジメントの推進

- ・ ROE9%を超過するまでは配当性向75%を維持し、自己資本の積み増しを抑制
- ・ 資本コストを意識した投資判断の徹底

GGP24定量目標

売上高
630億円

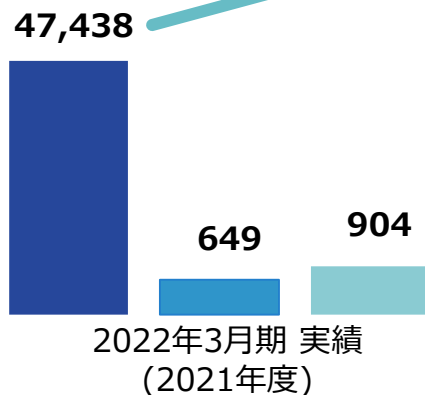
営業利益率
7.1%

ROE
9.0%

2021年度

実績

単位:百万円



2024年度

Global Growth Plan 2024

2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

変化から成長へ

- 売上高 630億円
- 営業利益率 7.1%
- 安定的にROE9.0%を超過する為に資本収益性とBSマネジメントを意識した経営を推進
- 事業ポートフォリオ改革の始動
- 成長分野への大胆な経営資源投入
- 投下資本の確実な回収

2030年度

事業ポートフォリオの最適化を追求

- 関連技術の応用と新規事業
- 付加価値の創出

63,000

4,500

3,500

2025年3月期 目標
(2024年度)

2031年3月期 目標
(2030年度)

■ 売上高

■ 営業利益

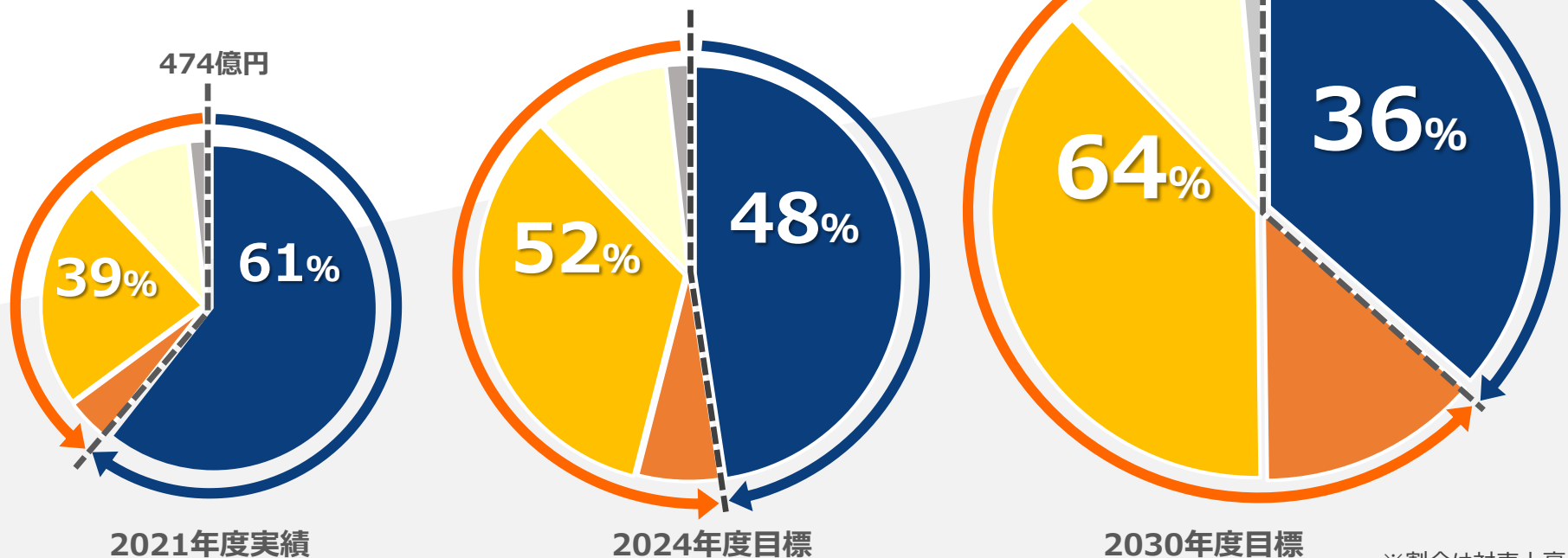
■ 当期純利益

EV等電動化関連成長事業および 電子情報通信関連成長事業

- EV等電動化関連製品
(バスバー・電流センサー他)
- HDD用サスペンション
- 光関連・プリンター関連
- その他

自動車関連既存事業

- 既存製品
(弁ばね・弁ばね用Wire・リングギア他)



※割合は対売上高

「材料から製品までの一貫生産」守り続けた技術から 新たな領域を目指します。>>>>

溶接 曲げ



■5G・IOT化により拡大する
データ社会への対応

光通信事業事業
HDD用サスペンション事業

ダイス成型



■気候変動への対応

バスバー事業
電流センサー事業
車載LED事業
竹炭サステナブル事業

圧延

精密塑性加工技術

■高齢化社会への貢献

リハビリロボット事業
超音波センサ(開発)

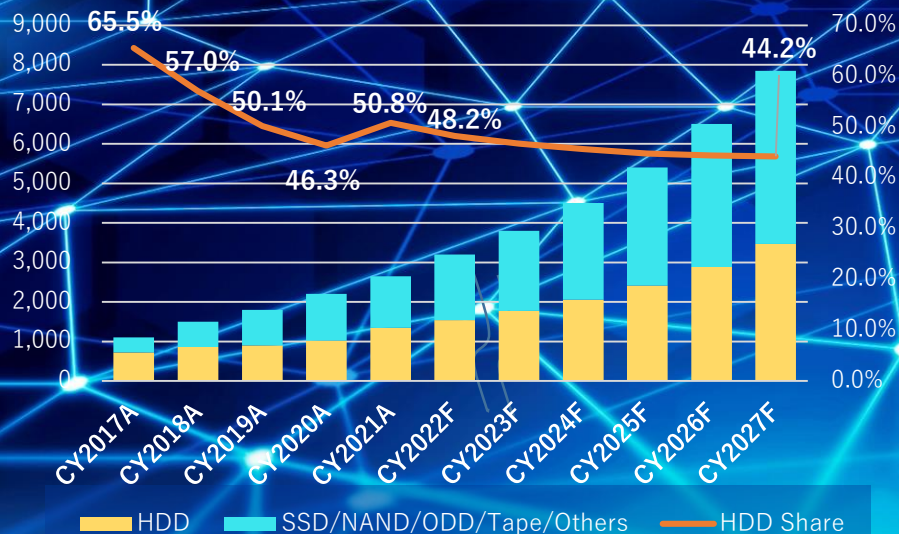
サンコール電子情報通信分野の柱。クラウドストレージ容量需要の大幅な伸びに対して、ニアライン向けHDDの需要は今後も増加。

クラウドストレージの世界市場は5G・IoT・DXの進展によって爆発的な成長が見込まれます。

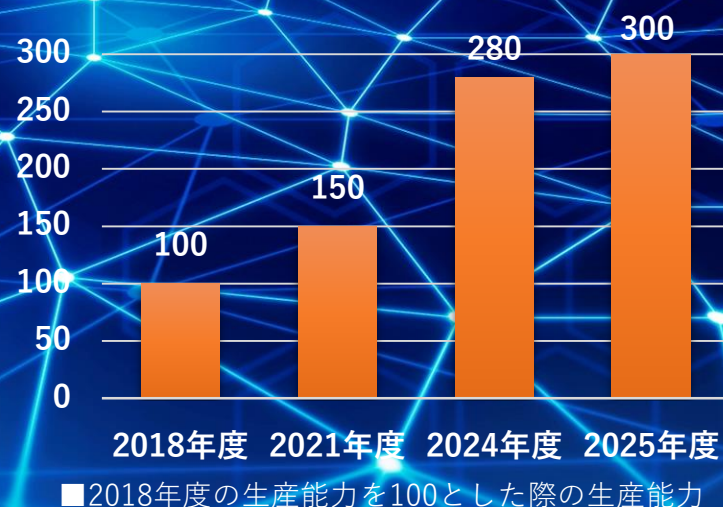
2021年度 売上100億円超 達成
生産能力を2021年度対比 約2倍に増強する計画



データストレージの容量需要推移



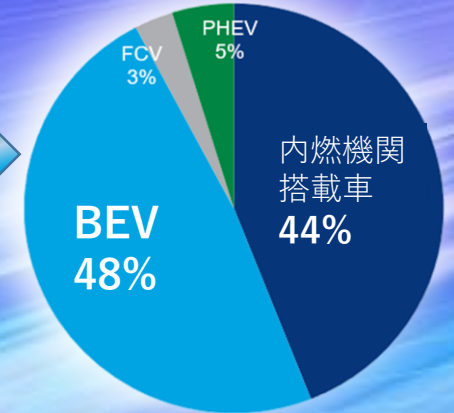
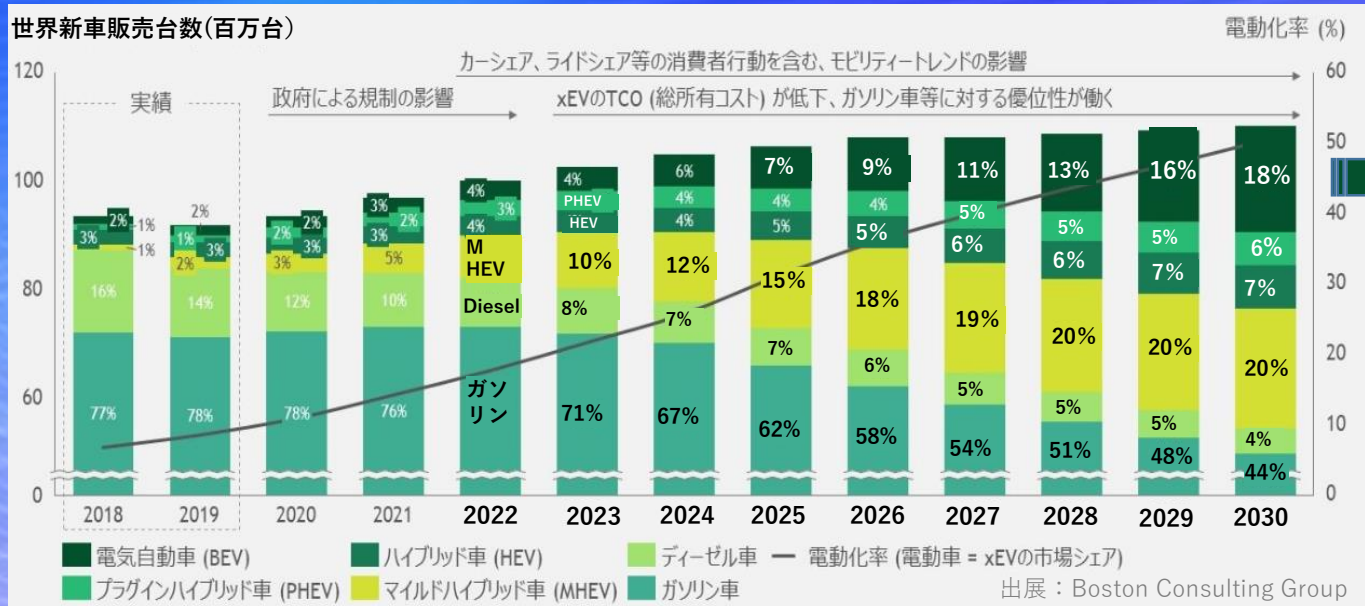
ニアラインドライブHDDの当社生産能力計画



2050年、EV化の世界に向けて

©SUNCALL CORPORATION All Right Reserved.

電動車のシェアは急速に拡大している

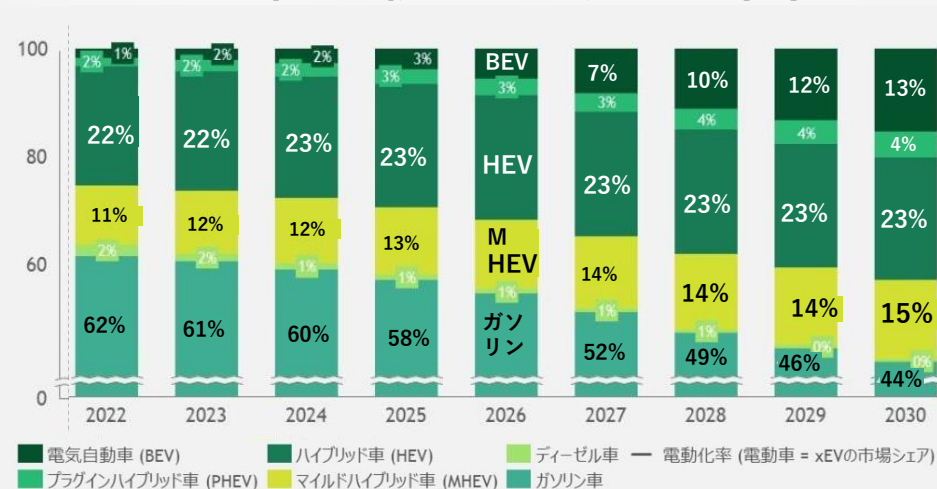


- ✓ 2021年 BEV+PHEV販売台数は、前年比2倍の2021年で660万台(IEA調査報告)。
- ✓ 2025年 電動車の販売台数が、全体の30%に達する。
- ✓ 2030年 電動車の割合が全体の50%を超える。
- ✓ 2050年 BEV販売台数は、48%へ。バッテリー駆動式が圧倒的多数となる。



2013年量産開始。国産ハイブリッド車を支えてきたEV事業の柱です。

～2030年 国内新車販売台数の割合 (%)



日本ではハイブリッドは引き続きシェアを維持する

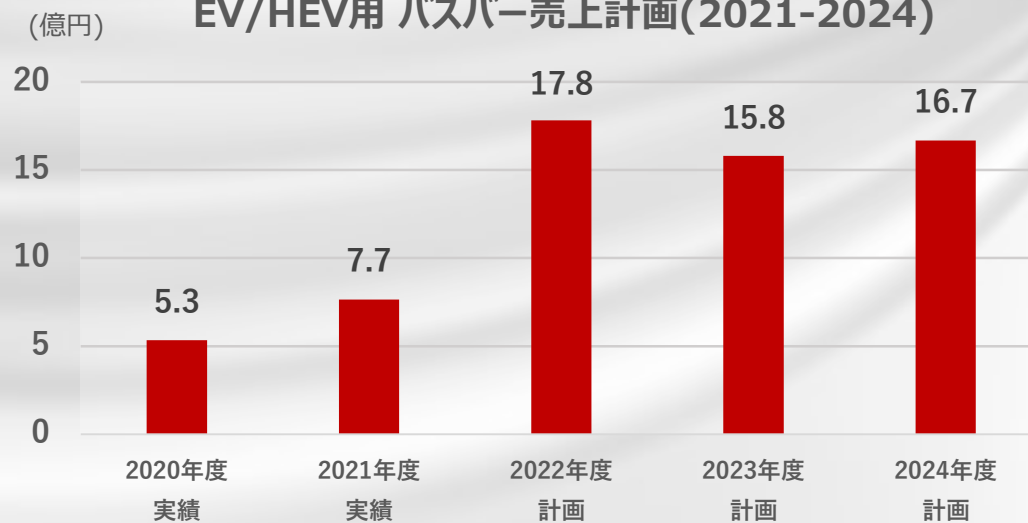
日本での新車販売台数における電動車の割合は、2025年までに40%を超え、2030年に55%となると見込んでいます。

日本では、ハイブリッド車 (HEV) のシェアが2019年時点ですでに22%を占めており、2030年でも23%と引き続きシェアを維持すると予測されています (世界では2030年に7%)

バスバー売上
2022年 17億円規模

2022年度から国内自動車メーカー2社 (EV・HEV車)へ 新規品 量産採用

EV/HEV用 バスバー売上計画(2021-2024)



欧州・米国・中国。電動化の進む海外EV車での採用で急加速。

EV



発電



電動車(EV,HEV,BEV)
2019年～国内向けHVトラック
2021年～欧州EVレース車
2021年～北米EV乗用車

メガソーラー・風力発電など蓄電池
2019年～NITE大型蓄電試験施設
2020年～太陽光発電蓄電池システム

産業機器



産業機器
2017年～国内向け電動フォークリフト
2017年～米国向けフォークリフト
2020年～欧州向けAGV(自動搬送機)

EV先進地域でのグローバル戦略の基盤を固めます。

2023年新拠点へライン増設
生産能力1.8倍へ増強



中国

2020年 SGT(サンコール広州貿易会社)へ
シャント拡販事務所設置

2023年5億円規模

- ・ 中国・欧州・北米での拠点整備
- ・ 京都南工場にてIATF16949取得
- ・ 新ライン増設へ2.5億円投資
- ・ 伊藤忠商事・伊藤忠丸紅鉄鋼とグローバル連携

北米

9月 北米展示会
2023年 営業事務所開設
(構想中)

欧州

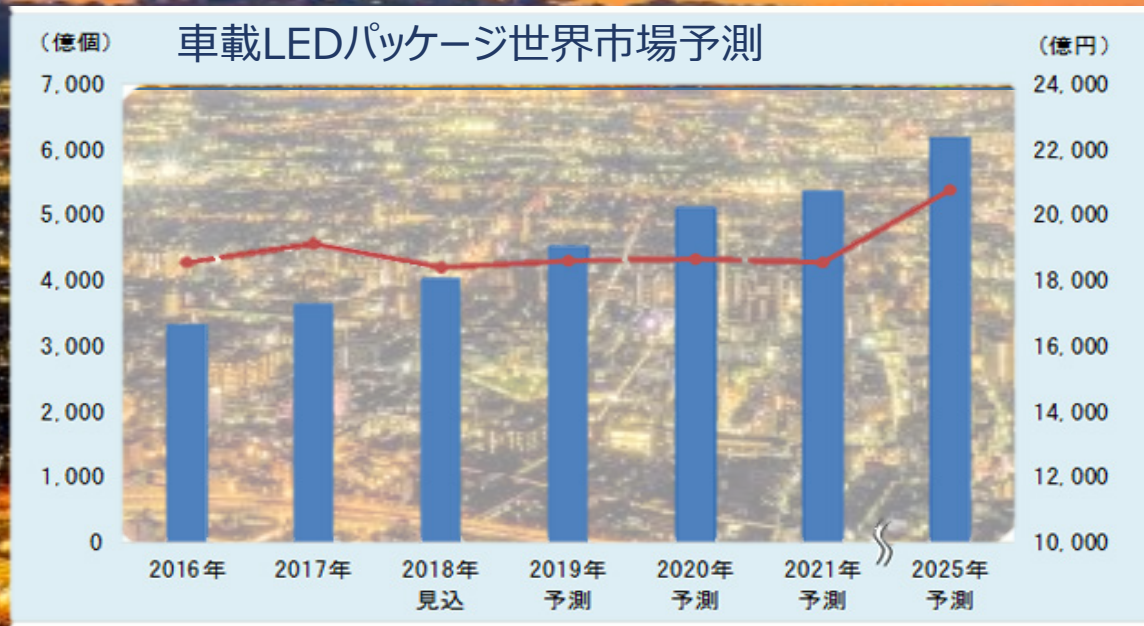
2022年
6月 Battery show出展
10月-ドイツへ営業事務所
設立(下期検討中)

2021年から量産開始した新事業。LEDの小型・薄型化実現に寄与。

自動車分野におけるLEDは、近年急速に普及しており、すでに高級車や一般大衆車のみならず、新興市場向け車両でも採用が進みつつあります。

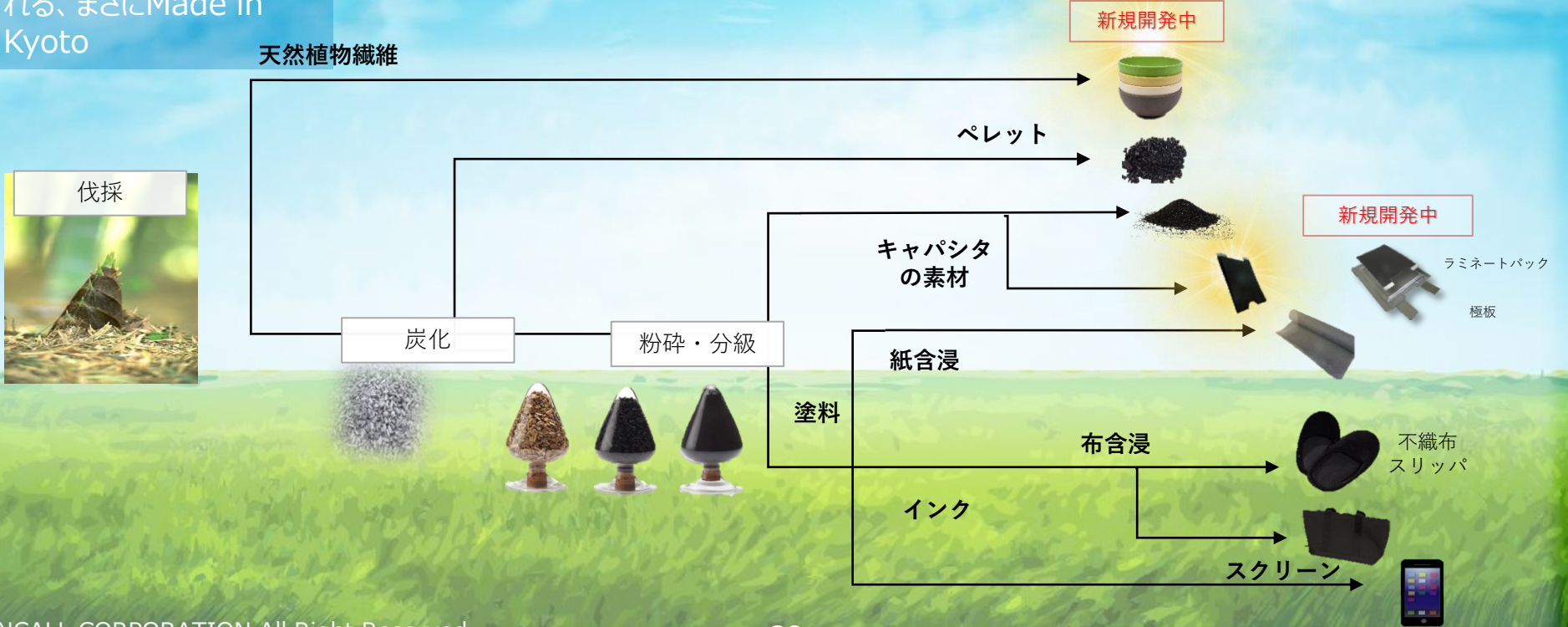
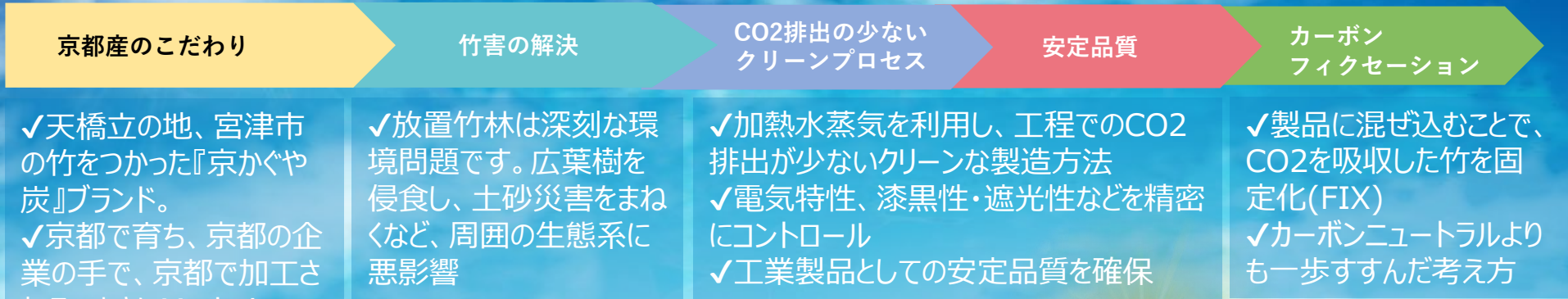


- 車載LED基板の量産化成功
- 2023年売上見込み 7億円



■カーボン・フィクセーション(炭素固定化)をめざして

車載インパネ(インストルメンタルパネル)塗料・内装品タッチパネル事業から更なるアプリケーションへ



文科省COIプロジェクトのひとつとして、京都大学と共同研究開発した歩行学習支援ロボット。

2020年に介護機器モデルとして発売されて以来、全国のリハビリテーション施設だけでなく、老人ホーム等介護施設で採用され、好評をいただいています。

装着イメージ

◇軽量化モデル・医療機器モデルを開発中。
歩きたい、という願いを取りこぼさない。



安心できる社会生活へ 空中超音波センサー（開発）

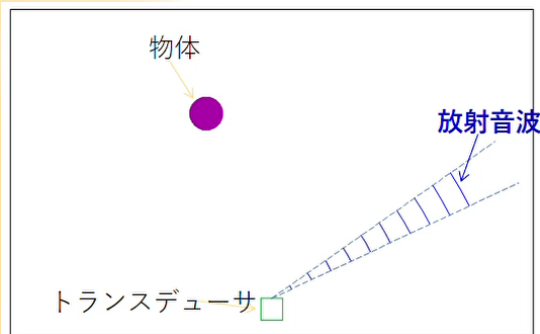
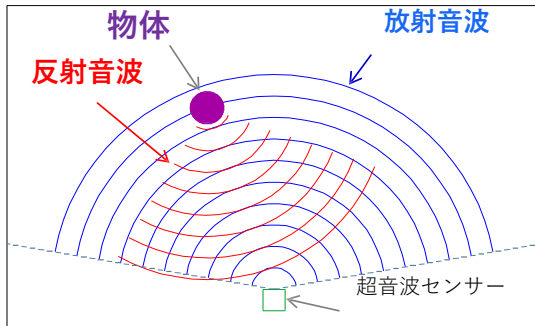
- 世界初、距離と方位の同時検知できる空中超音波センサーを開発中。より安心安全な社会へ。

従来品 広範囲に音波を放射。物体がこの範囲のどこに位置するかわからない



サンコール 開発品 物体までの**距離**と同時に物体のある**方向が特定できる**

現行複数のセンサーを1つでまかなえる！

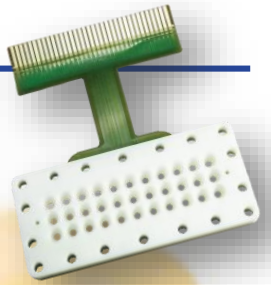


圧電素子実装技術 + 振動制御技術



サンコール独自の新規構造

- 超音波センサーの市場規模は、車載で約1500億円。FA/PA用途90億円。新しい領域をひらきます。



中期経営計画GGP24に対する進捗状況

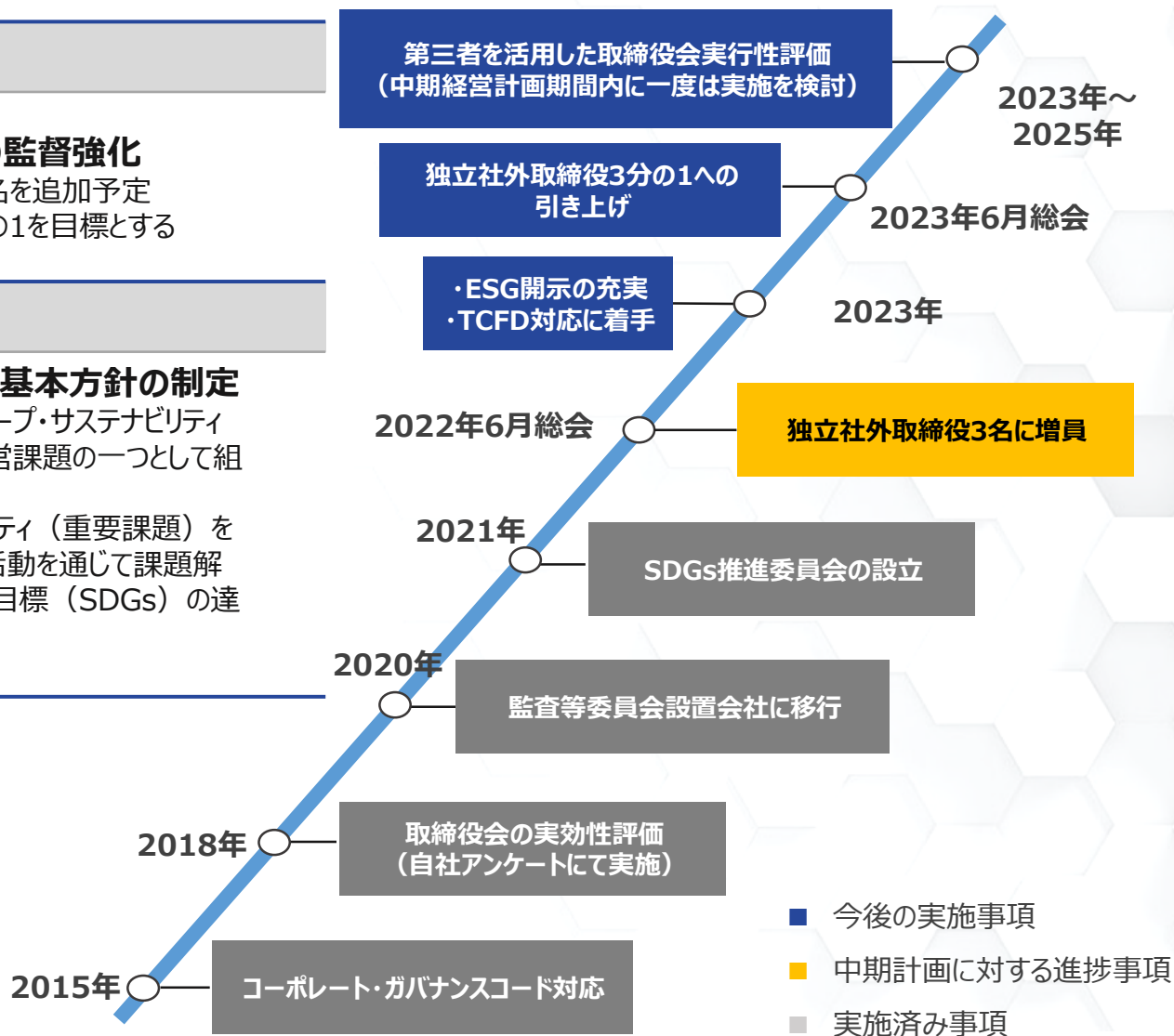
◆ ガバナンス強化の取り組み

- ✓ **独立社外取締役の増員を通じた、経営の監督強化**
 - 2022年6月総会において独立社外取締役1名を追加予定
 - 2023年6月総会までに独立社外取締役3分の1を目標とする




















◆ サステナビリティに関する取り組み

- ✓ **サンコールグループ・サステナビリティ推進基本方針の制定**
 - 当社は、“基本理念”に則り、「サンコールグループ・サステナビリティ推進基本方針」を定め、サステナビリティを経営課題の一つとして組織的・体系的に行動します。
 - 当社グループが優先的に解決すべきマテリアリティ（重要課題）を特定し、「経営計画」に落とし込み、各事業活動を通じて課題解決に向けて取り組むことで、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献します。

中期経営計画GGP24



◆ サンコールグループのマテリアリティ(重要課題)

		当社の取り組み		SDGsとの関連性
生物多様性	価値創造に繋がるマテリアリティ	気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 資源循環対応、環境に配慮したモノづくり 技術の開発・応用による課題の解決 EV製品、竹炭応用品の開発・提供によるCNへの貢献 環境負荷を低減する製造ラインの採用 	    
		安心できる社会生活への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 当社製品における自動車事故時のリスク低減 社会とのコミュニケーションの促進、地域との共存 すべてのステークホルダーの人権に配慮した事業活動を推進 	   
		高齢化社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 歩行支援ロボット等を通じた人生100年世代の貢献 	   
事業継続性	事業継続の基盤のためのマテリアリティ	多様な人材の登用	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材が活躍できる環境の提供 (ダイバーシティ&インクルージョン) 2022年度中に「くるみん」の採用を目指す 	
		人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 各国の労働環境整備 柔軟な発想や高い知識・技術・技能をもつ人材の育成 働きがいのある最適職場環境作りを実践 	     
		持続的成長を支える企業経営の実現	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスの充実 コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底 	

【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。

